日刊建設工業新聞　平成２５年５月１０日（金）掲載

ワークフロー効率化支援

オートデスク
建築・土木向けパッケージ最新版

オートデスク（東京都中央区、ルイス・グレスパン社長）は9日、建築・土木業界向けBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）／CIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）アプリケーションのパッケージ商品で新バージョンを10日から順次発売すると発表した。

最新版は両業界の幅広い業務のワークフローに適用しながら、企画、設計、施工、維持管理を効率的に行えるように支援するのが特徴。クラウドサービス「Autodesk360」を組み合わせると、チームコラボレーションやシミュレーションなどの機能が利用可能になり、時間や場所、使用端末を気にせずにプロジェクトに参加できるようになる。

建築向けパッケージ「Autodesk Building Design Suite 2014」は、BIMツール「Revit」（レビット）やオートCADなどさまざまアプリケーションを含む商品。建築（意匠）や構造、設備などの設計機能、リアルなレンダリング機能などが向上したほか、点群データや写真から3次元データを作成するアプリケーションなどを新たに搭載した。10日にスタンダード版を発売し、プレミアム版、アルティメイト版を順次投入する。

土木インフラ向けパッケージ「Autodesk Infrastructure Design Suite 2014」は、土木向け3次元ツール「Civil 3D」（シビル3D）やBIM／CIMツール「Infraworks」（インフラワークス）などをパッケージ化。地形や地図データと設計・施工BIM／CIMモデルを統合して3次元都市モデルを作成する機能や、道路や橋梁、鉄道などの計画・設計機能を強化したアプリケーションを追加した。6月5日から順次発売する。

新バージョンでは、レビットとシビル3Dにデータ対応した他社製アプリケーションを新たに提供する。対応するアプリケーションは、▽日積サーベイ＝建築数量積算・見積もり作成「HEAIOΣ（ヘリオス）Ver8・1」▽生活産業研究所＝高さ制限解析システム「ADS－BT for Revit」▽サトウファシリティーズコンサルタンツ＝建築コストシミュレーション「コストマネージャーVer01」▽NTTファシリティーズ総合研究所＝一貫構造計算「SEIN LaCREA」▽伊藤忠テクノソリューションズ＝3次元地質CAD／GISソリューション「GEORAMA for Civil 3D」。

建築設計ソフト データ連携実現

オートデスク 日積サーベイ 20日から提供

オートデスク（東京都中央区、ルイス・グレスパン社長）と日積サーベイ（大阪市中央区、生島宣幸社長）は9日、両社が提供する建築設計向けソフトウエアのデータ連携を実現したと発表した。オートデスクのBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）ツール「Autodesk Revit」（レビット）と、日積サーベイの建築数量積算・見積書作成システム「NCS／HEAIOΣ」（ヘリオス）が連携。概算数量の算出だけでなく、建築数量積算基準に基づく詳細積算まで可能となる。

データ連携機能は、20日から提供するヘリオス最新版（Ver8・1）に搭載される予定だ。

今回開発したデータ連携技術は、レビットで作成された詳細な3次元の設計情報から、積算に必要な情報をIFC形式でヘリオスに取り込む。一方、ヘリオスで積算のために利用した建物モデルをIFC形式でレビットに取り込み、施工図として活用できるのが特徴。BIMデータを用い、建築数量積算基準に合った詳細な積算と見積もりを簡単な操作で行うことができる。

データが連携することで、業務負荷や人的ミスの低減だけでなく、設計途中での高精度の概算が可能となり、設計者はプロジェクト全体の予算を考慮しながら設計を進められるようになる。積算担当者にとっては、作業時間を大幅に削減できるなど業務効率の改善につながる。

ヘリオスの価格は、構造積算セットが110万円から（月額保守料8250円から）、仕上げ積算セットが75万円から（同5625円から）。